

事業番号	290
------	-----

平成26年度 事務事業評価シート

事業の概要	事務事業名	《緑のネットワーク整備事業》					担当部	都市建設部		
	会計区分	一般会計			事業類型	施設整備系	担当課	みどり公園課		
	事業期間	平成12年度以前 ~ 平成30年度以降			担当係	公園整備係				
	総合計画 分野別計画	主目的	6 都市基盤		27 公園・緑地・緑道		3 公園・緑地・緑道の整備を推進します			
		副目的								
	予算区分	款	8	項	4	目	5	大	21	中
	根拠法令・個別計画	小牧市緑の基本計画、小牧市都市計画マスタープラン								
	目的 (対象をどの様な状態にするのか)	河川の堤防天端等を利用し地域住民が安全で快適に散策やジョギングに利用できるような整備する。								
	内容 (手段)	<p>堤防天端や隣接遊休地を利用して、歩行者が安全に通行できるように、堤防部においては舗装やフェンスの整備をまた、遊休地においては休憩園地の整備を行う。 職員は、工事等の設計、施工に関する監理を実施している。</p> <p>平成23年度は、大山川、境川、入鹿用水路敷の緑道整備工事、合瀬川、大山川の緑道整備実施設計を行った。 平成24年度は、合瀬川、大山川、境川緑道整備工事、境川緑道の高速道路剥落対策工事実施設計を行った。 平成25年度は、大山川緑道の整備工事を行った。なお、合瀬川緑道、境川緑道は平成26年度に繰越をしている。</p> <p>【H25直接経費内訳】 工事費 (19,950千円)</p> <p>平成26年度は、境川緑道及び入鹿用水路敷の実施設計委託及び合瀬川緑道の整備工事を行う予定です。 【H26直接経費内訳】 委託費 (9,500千円) 工事費 (46,200千円) (国庫支出金 特定防衛施設周辺整備交付金9,000千円)</p>								
	受益者負担	無								

		単位	H23決算額	H24決算額	H25決算額	H26予算額		
コスト	費用	直接経費	千円	53,672	48,502	19,950	55,700	
		正職員	従事者数	人	0.80	0.50	0.10	0.20
			人件費	千円	4,208	2,630	526	1,052
		その他職員	従事者数	人	0.00	0.00	0.00	0.00
			人件費	千円	0	0	0	0
	費用合計	千円	57,880	51,132	20,476	56,752		
	対前年比	%		88.3	40.0	277.1		
財源	一般財源	千円	44,980	42,512	20,476	47,752		
	国・県支出金	千円	3,600	7,000	0	9,000		
	その他財源	千円	9,300	1,620	0	0		

業 績	活動指標名		単位	H23	H24	H25	H26
	整備延長	km	目標	9.3	10.0	10.5	11.0
			実績	9.3	10.0	10.5	
			目標				
			実績				
			目標				
			実績				
	成果指標名		単位	H23	H24	H25	H26
	整備率	%	目標	47.1	50.6	53.1	55.4
			実績	47.1	50.6	53.1	
		目標					
		実績					

事業の自己評価	平成25年度の実施結果	事業の達成状況	大山川緑道については予定通り延長約160mの整備を行った。境川及び合瀬川緑道については河川管理者や高速道路桁下整備の中日本高速道路株式会社との協議・調整に時間を要し平成26年度に繰越し整備を行うこととした。			
		事業実施における課題	1級河川を占有することになることや高速道路桁下の整備となることから、各管理者との協議・調整に想定以上の時間を要するため、協議時間に余裕を持った調整が必要となる。			
		事業を縮小・廃止したときの影響	市民にとっては安全に安心して散策ができる道として親しまれており、整備済箇所と未整備課所とで地域格差が生じることとなる。			
	平成26年度の改善内容	26年度における事業の改善・見直し内容(新規追加事項、廃止・削減事項等)	地域状況を考慮した適切な舗装や安全柵に選定を見直し、実施単価を抑えることにより整備延長の増加を図り事業進捗を進める。			
	平成27年度の事業の方向性	方向性の判定	維持	事業のボリュームを現状規模で維持すべきもの(対象や手段を見直す場合も含む)		
	判定理由	市民にとっては安全に安心して散策ができる道として親しまれており、整備済箇所と未整備課所とで地域格差が生じることとなる。				
	27年度以降の改善案	河川管理者との協議・調整や周辺状況を考慮した舗装や柵の選定により事業単価を抑え整備延長を延ばすことにより事業進捗を図る。				

二次評価	方向性の判定	判定理由
	維持	一次評価のとおり。